



大村市立福重小学校 学校だより

令和4年9月12日(月)

みどり

文責：校長 田中 康隆

目指す児童像：⑤るさとを愛する子・④ふうする子・③んせつな子・②んきな子

野外体験学習を終えて

今年度は、コロナ禍を考慮して宿泊での学習を見合わせ、9月7日(水)野外体験学習をしました。また、台風で1日延期もしましたが、もともと2日間の日程だったので、施設を使うことができたのは幸運でした。6年生をはじめ多くの子供たちと職員に見送られ、笑顔で出発をしました。この全校での見送りは、福重小学校の伝統で、とても微笑ましい光景です。見ていて心が温かくなりました。

学校の教育活動には、必ず「めあて(目的)」があります。子供たちに活動を通して「どんな力をつけてほしいのか」「何ができるようになるのか」、通常の授業でも時間の最初に示し板書するのが「めあて」です。朝の出発式では、「挨拶をすること」「自然に親しむこと」「仲良くすること」の確認がされていました。

15時過ぎ、無事子供たちは帰ってきました。大きなけがや体調不良の訴えはなかったと聞いています。また、福重小学校の子供たちは…「挨拶がいい」「話の聞き方がいい」「借りたものを返す時に感謝の言葉が言えていた」と、自然の家の職員の方からお褒めの言葉をいただいたそうです。多くの学校が利用する施設の方がそう言うので下さるのですから、大きな自信を持ってよいと思います。たしかに解散式の話聞く姿(姿勢・まなざしも、出発式より一段と頼もしくなっていました。

「校外でできたこと、できなかったことを次の日からどう取り組んでいくのか」、今後の成長をととても期待させてくれる5年生の野外体験学習となりました。保護者の皆様のご理解とご協力に感謝します。

説明を聞く姿勢・まなざし



手を取り合い、助け合う仲間



険しい沢も何のその



留守中に教室掃除をしてくれた6年生から、5年生に「高学年としていっしょにがんばろう」のメッセージ

